

6月1日(木)、和歌山県消防学校で開催された、「第46回和歌山県消防救助技術会」において、吉備金屋消防署の箸尾知哉消防士が、水平に展張した20mのロープを往復してタイムを競う「ロープブリッジ渡過」の部で優勝し、全国大会出場の切符を手に入れました。

箸尾消防士は、8月23日に宮城県で開催予定の、予選を勝ち抜いた精鋭1000人の救助隊員が参加する「第46回全国消防救助技術大会」に出場し、救助技術を競います。

消防救助 全国大会へ



有田川 防災まちづくり vol.19

自分の命を自分で守るために

問 吉備庁舎総務課

2階の方が安全！

「寝室を2階にする」「大切な財産は2階に保管」。これらは、家庭でできる災害への備えのひとつです。



地震の場合

阪神・淡路大震災で亡くなった人の死因は「圧死」が約8割を占めました。

建物が倒壊しても2階の場合は生存スペースが残りやすく、1階に比べ死者は圧倒的に少ないとされています。

洪水・土砂災害の場合

「2階で就寝していたため助かった」「2階に避難して助かった」という事例は多く存在します。

浸水や土砂の流入は1階ほど被害を受けやすいため、大雨が降り続けている時は、「2階に上がる」ことも命を守る行動です。



写真元 (財)消防科学総合センター

災害は毎年全国で発生しており、いつあなたの身を災害が襲うかは分かりません。「今まで大丈夫だったから、今回も大丈夫」は通用しません。

避難行動が遅れ、既に避難が危険だと判断される場合は、屋内の安全な場所に待機することも、命を守る行動であることを覚えておいてください。